

退職者連絡会

第58号
(発行・編集)
J R九州労組
退職者連絡会
鹿児島地区本部

始良市議選「上村ちかし」氏 少数激戦を制し、4期目の当選

始良市議選と市長選は、四月十七日投票が行われ、J R九州労組準公認候補、退職者連絡会の「上村ちかし」氏が少数激戦を制し、四期目の闘いを見事十位で上位当選を勝ち取りました。また市長選は、現職の「湯元よしひろ」氏が元職の笹山義弘を破り、二期目の当選を果たしました。

当日の午後十一時過ぎ、第二回選挙管理委員会より、「二〇〇票の得票発表があり、後援会事務所を集結していた多数の支持者から大きな歓声と拍手が沸き上がりました。発表を受けて、畑中満後援会会長より当確の判断がされ、待機して



候補(右)&夫人と必勝ダルマを掲げ祝福する日高光英地本委員長

いた上村候補を迎え、当選集会が行われました。上反屋浩二氏(J R九州労組書記長の司会)が始まり、まず候補による必勝ダルマの目入り式が行

なわれたのち、畑中後援会会長が「地元を始めJ R九州労組、退職者連絡会、県連合産別の皆様の力強い支援で勝利することが出来た」と謝辞が述べられました。引き続き、お祝い駆け付けた「野間た

けし」衆議員より祝辞が述べられた後、上村ちかし氏が支持者らに御礼を述べると共に「心都市・始良のまちづくりに向けて四年間、始良市の発展のために全力で取り組む」と決意表明しました。

今回の選挙戦は、参院選の前哨戦と位置づけ、子育て世帯の支援、高齢者が生き生きと暮らせる生活環境の整備、公共交通の充実・強化と地域間を結ぶ交通網の整備など、発展し続けるベクトタウン始良の将来や地域の街づくりへの取り

組みが問われる闘いでした。定数二十四人に対し、二十五人が立候補、まさに現職十六、元職一、新人七人が入り乱れた少数激戦の闘いとなり、投票率は前回(五九・九一%)を下回り五四・五三%となりました。地元後援会とJ R九州労組と退連会が連帯し、県連合産別



支持者に深々と御礼の挨拶



候補を一期目から支えた北芳明前会長と畑中満後援会会長(左)とのツーショット

割当の電力総連やU Aゼンセン、私鉄総連等の産別支援の下、役員をはじめ、組合員、連絡会会員等による献身的な拡大行動や地元自治会を中心とした政策チラシ配布行動により、前半の劣勢を跳ね返し

終盤の盛り上がりで必勝の手ごたえを確信していました。特に、地元後援会による地域での活動は、まさに目覚ましいものがあり、出発大会での地元支援者の参加状況を見ても際立っていました。

今後四年間、スローガンでもある『熱き思いが新しい時代を創る』ことを主眼に、次世代へ引き継ぐ子供たちを何よりも大切に子育てと高齢者支援などの公約を全力で取り組んで行くものと確信しております。

今後四年間、スローガンでもある『熱き思いが新しい時代を創る』ことを主眼に、次世代へ引き継ぐ子供たちを何よりも大切に子育てと高齢者支援などの公約を全力で取り組んで行くものと確信しております。

▼始良市議選の投票率は前回を5・39ポイント下回った。コロナ禍や市議選の立候補者も前回よりも3人少ない25人。ベッドタウン化で有権者が65%を占める始良地区が4200人増加したにも関わらず浮動票が顕在化し、市長選も3度目の一騎打ちで争点もなく関心の低さが結果として影響したのではないかと。▼

編集後記

連絡会会員・現職の皆様選挙戦でのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

GWの人流拡大が心配だ。油断禁物！